



受診率	2019(R元)年度		2020(R2)年度		2021(R3)年度		2022(R4)年度	
	最低値	最高値	最低値	最高値	最低値	最高値	最低値	最高値
中学校	29.6%	45.5%	12.6%	29.5%	30.7%	47.8%	19.3%	40.2%
小学校	48.6%	72.7%	20.8%	50.8%	37.0%	68.6%	41.4%	73.1%
就学前施設	55.8%	100%	16.7%	85.7%	66.7%	100%	48.1%	100.0%
平均受診率	52.5%		35.9%		47.7%		49.0%	
耳鼻科 ;	69.1%		60.5%		65.0%		70.7%	
眼科 ;	64.0%		57.8%		62.5%		65.0%	
歯科 ;	49.8%		31.9%		44.8%		45.1%	

また、未受診の理由で、「健康への理解不足」「共働きやひとり親家庭」「経済的困難」があり、医療費はかからないが、眼鏡を買えない、通院費(交通費)などの負担が重く、口腔崩壊は、顎やかみ合わせ、咬合異常への対策を諦めていないかなど、子ども達の学校・園生活を丁寧にかみ、手だてを実施してほしいこと。地域に医療機関があるかどうかも含め、保護者任せではなく、市や地域も一緒に子ども達の健やかな成長・発達を促すことができるまちづくりを切に望むと訴えました。

市「受診率向上に工夫」

市は、健康診断未受診でも、学校(園)医なら無料で受診できることや医療費無償化が進むことの周知、それぞれの学級・学校では子ども達の実情に応じた手だてが行われているが、医療費無償化を契機に、さらに個々の実態把握、受診率が向上するような工夫・手だてを実施していくと答弁がありました。

この9月からICTを活用した取り組みを進めるとのことでした。(毎朝、子ども達が日常の気持ちをスタンプでチェック、子ども達の発信を早く受けとめる工夫を構築中)

また、文科省が「学校健康診断をめぐる現状と経緯について」で通達しているように、診断結果の電子化やデータ化による分析、就学前から中学生まで連続した取り組みを行うことも求めました。

健やかな成長・発達を

今、ITなどの発達で視力だけでなく、イヤホンによる難聴も増えています。歯の健康同様、放置すれば良くなることはありません。健康調査票の提

出だけでなく、健康診断時にアンケート実施を行い、自分の身体や健康の変化に気づく取り組みを提案。保護者に委ねることが多々ある時期であるものの自分の身体・健康の主人公になってもらう取り組みを進めてほしい、経済的な心配なく通院できることを周知することを求めました。

口腔ケアをセットで行うのは、歯科医の時間的負担が大き、「セットは難しい」という答弁。「口腔ケアのPR や周知に向けた取り組み、催しなどしていく」ということでした。

三方良しの検討を

私(黒田)は、川西市健幸まちづくり計画の2022年度目標である「8020運動を知っている市民は75%」「かかりつけ歯科医を持っている市民は80%」は、目標に達していないこと。

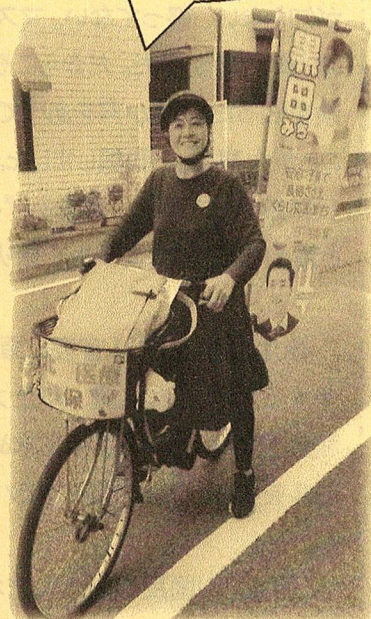
現在の健診委託料が一人4000円(税別)。口腔ケア(歯垢・歯石除去)だけならば約3000円(聞き取り)。再診料や他にも費用がかかるかもわからないが、川西市の歯科医師さん達が個別健診や障がい者・高齢者の健診・治療など先進的に進めてくださった歴史があるので、ぜひ市として働きかけて実現してほしいと求めました。

市は、財政的なこともあるが、市と歯科医師と市民の三方良しになるよう検討していくとのことでした。

80歳で歯が20本

ちなみに、私(黒田)が無料健診後、歯垢・歯石除去で支払ったお金は2400円(3割負担)でした。80歳になっても自分の歯が20本残っているように、虫歯の早期発見・早期治療、歯周病予防・対策・治療ができる歯科かかりつけ医を持つことができることで、高齢になっても元気で日常を送ることができるまちづくりを進めていきたいです。

まちかどカフェ・トーク
お伺いしま〜す



歯の健康は全身の健康「健診と口腔ケア、セットでできないか？」提起

私(黒田)は、歯の健康は全身の健康につながると、議員になってから「市で歯科健診を実施してほしい」と取り組んできました。今回、6月議会で「健診時に口腔ケアも一緒にできないか、と問題提起し、討論しました。

歯の検診はこの間、対象年齢を着実に広げ、昨年度からは、20~70歳の5歳刻み健診がはじまりました。しかし、受診率は中々上がらず、対象者の受診率は6.32%にとどまっています。(表①)。

歯がなくなる一番の原因は歯周病疾患。以前から認識されていたものの、全身疾患との関係も近年さらに注目を集めています。

「どうして健診に行かないの?」と聴くと「健診しかしてくれない」「疾患が見つかったも、治療は別に予約が必要」とのこと。経済的理由で、歯科受診を諦めている方の声もお聴きします。そこで、今回は、歯垢(クラーク)・歯石除去、口腔ケアを健診と一緒にできないか、歯科のかかりつけ医をもつきっかけになり、早期発見・早期治療に役立つのでは、と提案しました。

全身疾患に影響は認識

市は、歯周病と全身疾患との関係、歯周病対策の重要性は理解しているとのことでした。

しかし、年に1回以上定期的に歯科健診を受けている市民は約半数(アンケート結果)おり、健診と

成人歯科健診(個別)の状況について (表①)

(人)	2017年 H29年	2018年 H30年	2019年 R元年	2020年 R2年	2021年 R3年	2022年 R4年	2021年対象者13538人受診率 6.38%
受診者数	1001人	1056人	1416人	1024人	864人	1243人	2022年対象者19679人受診率6.32%

2021(R3)年度までは、20、25、30、35、40、50、60、70歳が対象。2022年度から5歳刻みになりました。